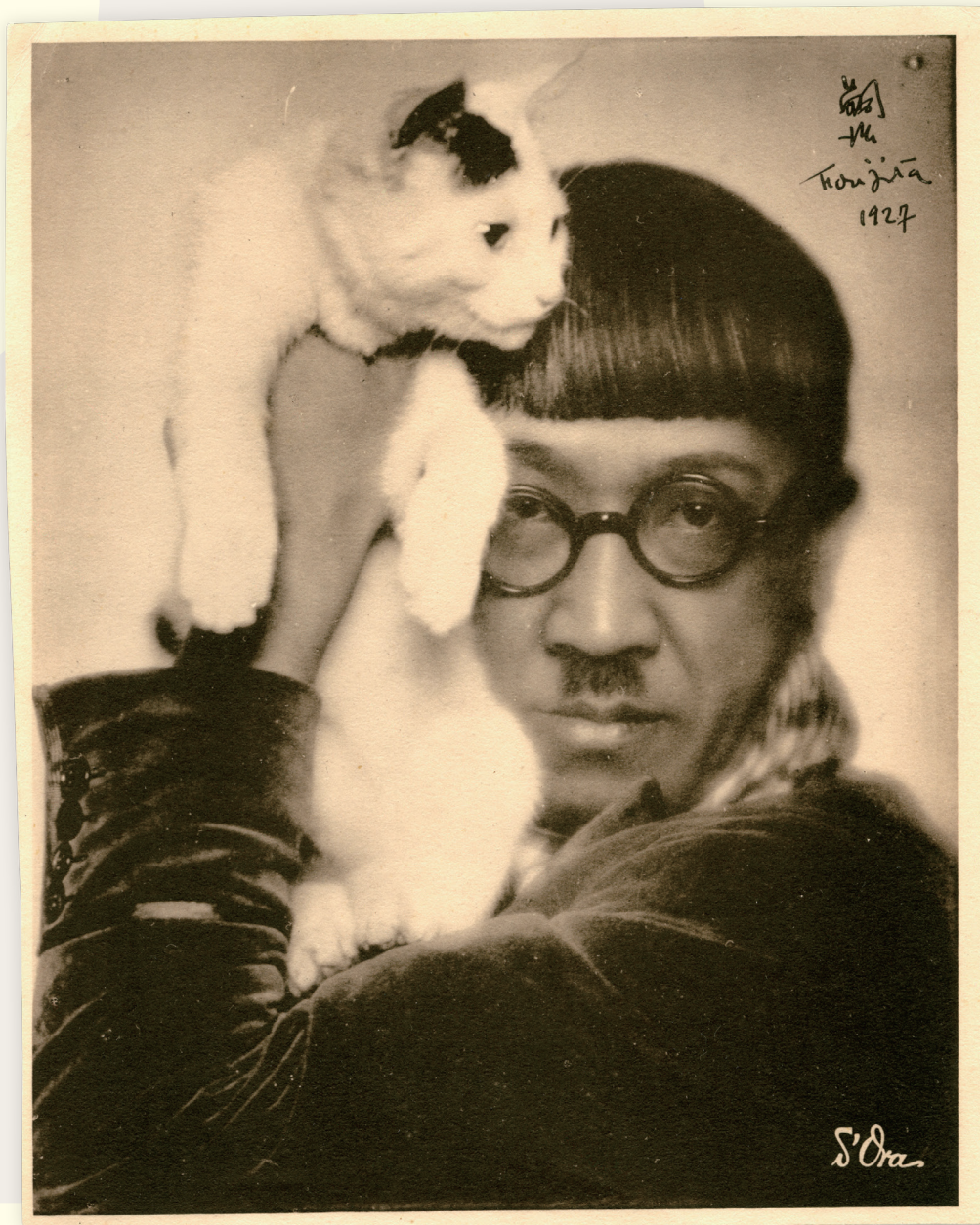


先行プレスリリース

Tsuguharu Foujita

Photography



Painting

ドラ・カルムス《猫を肩にのせる藤田嗣治》

藤田嗣治 絵画と写真

2025年7月5日[土] — 8月31日[日]

休館日: 月曜日[ただし7月21日、8月11日、8月25日は開館]、7月22日(火)、8月12日(火)
開館時間: 10:00~18:00(金曜日~20:00) *入館は閉館30分前まで

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY





ドラ・カルムス《藤田嗣治》

藤田嗣治(1886-1968)は、「美しき乳白色の下地」と讃えられたその絵画で世界的に知られた、エコール・ド・パリを代表する画家です。この展覧会では、藤田の絵画制作を「写真」を通じて再考していきます。

いくつかのカメラを所有していた藤田は、生涯にわたって数千点におよぶ写真を残しました。華やかなパリ、先進的なニューヨーク、情緒ただようラテンアメリカ、活気あふれる北京、そして日本。世界中を旅した藤田の写真は、20世紀の記憶だけでなく、絵画の裏に隠された彼の「秘密」をも饒舌に物語ってくれます。

本展では絵画に現れる写真の断片を徹底的に探り当て、藤田の写真活用のプロセスを検証します。さらに藤田が撮った写真のなかには、彼の絵画と同じく、観る人の心を惹きつける優品が数多く存在しています。本展では日本とフランス・エソンヌ県に現存する写真を厳選して紹介し、藤田の知られざる魅力にせまります。また、藤田自身の姿は自画像、自写像、著名な写真家たちによるポートレートなどによって今日に残されています。重層かつ巧妙に演出された藤田自身のイメージもまた、絵画と写真によるハイブリットな生成物だと言えるでしょう。描くこと、そして撮ること。二つの行為を絶えず行き来した「眼の軌跡」を追いかけて、これまでにない語り方で藤田嗣治を紹介していきます。



藤田嗣治《自画像》1929年、名古屋市美術館



藤田嗣治《婦人像(リオ)》1932年、広島県立美術館



藤田嗣治《猫を抱く少女》1949年、個人蔵(名古屋市美術館寄託)

主催：東京ステーションギャラリー[公益財団法人東日本鉄道文化財団]
 監修：佐藤幸宏(札幌芸術の森美術館 館長) 協力：メゾン＝アトリエ・フジタ(フランス・エソンヌ県) 企画協力：キュレイターズ
 *本展は、愛知、茨城、北海道を巡回予定です

東京ステーションギャラリー

東京都千代田区丸の内1-9-1(JR東京駅 丸の内北口 改札前)
<https://www.ejrcf.or.jp/gallery/> Tel. 03-3212-2485

広報に関するお問い合わせ 東京ステーションギャラリー学芸室(羽鳥) Tel. 03-3212-2763